

平成 2 4 年
(2012)

あわら市観光白書

平成 2 5 年 2 月

あわら市観光商工課

平成24年あわら市観光白書

1 平成24年実績

平成24年1年間にあわら市を訪れた観光客数は、1,381,800人(対前年比123,600人、9.8%の増)で、このうち宿泊客は799,300人(同82,400人、11.5%の増)、日帰り客は582,600人(同41,200人、7.6%の増)であった。

観光地別観光客数

観光地別では、福井県随一の温泉観光地である「あわら温泉」の818,500人が最も多く、次いで金津創作の森142,800人、ゴルフ場133,300人、北潟湖畔110,900人、その他(セントピアあわら、吉崎御坊等)176,000人となっている。

発地別観光客数

発地別内訳で見ると、県内客は50.4%の696,000人、県外客は49.6%の685,800人となり、おおむね半々に分かれている。

県外客の内訳では、あわら温泉が「関西の奥座敷」といわれるように、関西方面(1)からの客数が296,100人(県外客の43.2%)と最も多くなっている。

次いで中京方面(2)の150,600人、北陸(石川・富山)方面の122,000人、関東方面の56,000人の順になっており、関西・中京方面からの客数が県外客全体の3分の2を占めている。

(1) 関西方面とは、大阪・京都・兵庫・滋賀・奈良・和歌山の6県

(2) 中京方面とは、愛知・岐阜・三重・静岡の4県

2 平成23年との比較

あわら温泉宿泊客数増加の要因

宿泊客をあわら温泉だけに限るとその数は786,900人で、前年の704,500人と比較して82,400人、11.7%の増となった。

これは、全国で温泉施設を展開する事業者が、平成24年2月にあわら温泉に施設を開業したことによる誘客の増が大きな要因と考えられる。

また、平成23年の大雪や東日本大震災の影響などで大きく落ち込んだ上半期の入り込みが例年並みに戻ったことに加え、夏季の入り込み数が増加したことなども要因として挙げられる。

日帰り客数増加の要因

日帰り客の総数が、前年比41,200人、7.6%の増の582,600人となった要因としては、6月に開催した食のイベント「あわら湯けむりごっつお祭り」やセントピアあわらでの各種イベントの成功、金津創作の森のイベント、企画展が好評だったことなどが挙げられる。

また、あわら北潟風力発電所「あわら夢ぐるま」や農産物直売所「風羽里」などの新たな観光資源が加わった北潟湖畔も、対前年比5,600人、5.4%増の110,900人と順調にその入り込みを伸ばしている。

総合的要因

観光地ごとの要因は以上のとおりであるが、あわら市全体で見た増加の要因としては、全国展開の温泉施設の開業によるメディアなどへの露出があわら温泉の知名度向上につながり、全体の底上げに結びついたものと推察される。

3 今後の対応

長引く景気の低迷は、政権交代を機に進められている政府の経済対策などで、一部に回復の兆しが見られるようになってきた。しかしながら、サービス産業である観光にまでその効果が波及してくるには、まだしばらく時間を要するといわざるを得ない。

加えて、ライフスタイルの変化に伴い人々の余暇時間の過ごし方も多種多様にわたるようになり、ここに観光の占める割合をいかに増やしていくか、そして観光の対象としてあわら市をどう選んでもらうかが、観光を基幹産業の一つに数えるあわら市にとって、重要な課題となっている。

観光を取り巻くこうした厳しい環境の中、あわら市の観光が生き残るためのキーワードが北陸新幹線である。

平成27年3月に迫った長野 - 金沢間の開業、37年度ともいわれる県内開業に、的確に対応できるか否かが観光の未来を左右するといっても過言ではない。

そのためには、当面の金沢開業を見据え、関係者が一丸となって、新しい観光資源の発掘や情報の発信、人材を生かした魅力ある滞在型の観光地づくりを戦略的に推し進めていくことが必要となる。

あわら市の対応

平成24年度から27年度にかけて、政府の緊急経済対策や福井県の支援により、「温泉情緒あふれる華やぎのまちづくり」をテーマに、芦原温泉街の修景やあわら温泉湯のまち広場における足湯の整備などを行い、北陸新幹線金沢駅開業に向けた湯のまちらしさの創出を図る。

一方、JR芦原温泉駅周辺においても、回遊性に着目したハード・ソフト両面の事業を地域住民と協力しながら進めていく。

さらに、北潟湖畔や吉崎御坊などについてもその魅力向上のための仕掛けづくりに取り組む。

こうした取り組みと併せて、一般社団法人あわら市観光協会を中心に、「越前あわら・三国温泉泊覧会」をはじめさまざまなソフト事業を展開するとともに、マイスター検定合格者などを中心にボランティアガイドの育成に取り組みながら、郷土色豊かな着地型旅行商品の開発・販売と観光客の誘致を進めていく。

広域連携

北陸新幹線に向けた対応は、県境を越えた広域連携においても不可欠である。

現在、「越前加賀広域観光推進協議会」「福井坂井奥越広域観光圏推進協議会」「芦原温泉駅ブロック観光開発協議会」等を通じて、近隣市町と連携した観光施策の展開を図っているところであるが、さらに、23年に発足した「越前加賀宗教文化街道～祈りの道～推進協議会」においては、宗教文化や死生観をテーマに、ターゲットを首都圏の成熟世代（団塊世代）に絞り、積極的な観光客誘致施策を実施していく。